

江戸川区出身で水泳選手の池江璃花子さんが、先日自ら白血病であることをツイッターで公表したことには私に限らず、皆様も驚かれたことでしょう。

この突然の出来事について、同じ白血病を発症し十年以上治療生活をされている女性Fさんのコメントが、新聞の読者欄に掲載されておりました。その内容は、池江さんに寄せられた周囲の激励に対する彼女のツイッターでの返信の中に「自分に乗り越えられない壁はないと思っています。」という言葉がありました。その言葉に関しFさんが「彼女にプレッシャーとならないのか、切ない気持ちでいます。」と、まず心配の言葉を述べてありました。Fさんに由りますと「ひとくちに白血病といっても種類に違いがあり、染色体の異常などで本当に治療方法は多岐にわたります。そして、一段落した後にある意味、病との本当の闘い、向き合いが始まるのです。致死量に近い抗がん剤治療は必須でしょう。そして免疫をあえて落とし、上げたところで、また落とす…。これの繰り返しによる身体のダメージ

は一般的な想像を超えます。…」そしてFさんの最後の言葉として「彼女の生きる意義が、選手としてだけでなく、人間として全うすることにあると、信じてほしい。」と綴ってありました。

さて、この記事を読ませて頂きますと、白血病という病気が私たちの想像を絶する難病であることがひしひしと伺えます。そのことを知ってか、知らずか？オリンピック担当大臣が記者の質問で発した「本当にがっかりしている」という言葉が国会でも問題になりました。私は政治評論家ではありませんので細かいことは言えませんが、東京オリンピックの成功と一人間のいのちの尊厳というものの境目(けじめ)が感じない発言だなあと思いました。大臣を弁護するつもりもございませんが、やはりオリンピック担当大臣ですので、大会をしっかり盛り上げ成功させることを強く思っていることは確かでしょう。池江さんはそういった中の中心人物のひとりであったことは間違いありません。しかし、白血病という難病であることが分かった直後の大臣のコメントとしては、

大変問題発言であったことは明確です。

そして、今回の池江さんの公表から大臣の問題発言についてまで、僧侶として改めて考えてみました。考えているうち、一つ強く思ったことが、「これは他人事ではなく一人一人の大問題であった！」ということがありました。今私は幸い白血病ではありませんが、すべての生きとし生けるものに共通することが「生老病死」の問題です。もっと言いますと生まれたものは必ず死んでゆくという定めを抱えて生きております。そして、それが自分の思い道理にならないことであることを強く感じた時苦悩が生じます。池江さんは今その真ただ中にいるかと思えます。

南無阿弥陀仏とは、生死の苦悩が如何なることかを教え、慈悲をもって死ということに対し浄土という最大の価値を与え導いてくださるお言葉です。

人の人生や生き方は様々ですが、その人生そのものを見捨てることなくどこまでも寄り添い、死ではなく浄土往生させて頂くいのちでありました。 称名

## ● 写経と法話会 毎月9日開催 妙蓮寺にて

写経は『仏説阿弥陀経』を少しずつ進めています。 初回テキストをご購入下さい。(864円税込)  
法話会では『正信偈』を少しずつあじわっていきます。

3月9日(土) 14時～

4月9日(火) 14時～

# 春の彼岸法要

往生たれた方々を偲び、今生かされているいのちの尊さを教え導いてくださる仏様に感謝申し上げます。

**日時 平成31年 3月23日(土)**

**開始 14時～ 『仏説阿弥陀経』**

14時30分頃～ご法話「浄土真宗の救いの話」 30分 2席休憩有

講師 柏倉学法師 千葉県真宗寺

(毎年お越しいただいている先生です、全国各地でご活躍されています。)

ご法話終了後、茶話会 (手作りおはぎをお召し上がりください。)

16時頃解散予定

場所 妙蓮寺本堂 駐車場有

江戸川区一之江2-17-5

お問合せ03-6231-4733

※ 今回初彼岸をお迎えの方には、法名をおたずねさせていただきます。

※ お焼香を読経中に行っていただきます。

